



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON



©TAKAKI KUMADA

国際音楽祭 NIPPON 2022

芸術監督: 諏訪内晶子

諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル
J.S. バッハ: 無伴奏ソナタ&パルティータ 全曲演奏会

世界中が新型コロナウイルス感染症の影響による「禍」に突入し、はや2年の月日が経とうとしています。新変異株の出現もあり、様々に制限された日々が長く続く中で、これまで気に留めなかった「日常の出会い」が、私たちにとってどれほど大切なものであるかを、切実に感じる時間でもありました。

国際音楽祭NIPPONは、音楽を通じた「出会い」の場として、「感動を紡ぐ」場であってほしいと願ってまいりました。演奏をお聴きいただくお客様、未来を担う若い方々と、かけがえのない演奏空間を共に過ごし、特別な「経験＝体感」を共有できることを心待ちにしております。

会場に足をお運び下さった皆様、この度も変わらぬご支援をいただいております。企業の皆様、関係の皆様にも厚く御礼申し上げます。

国際音楽祭NIPPON 2022
芸術監督
諏訪内 晶子

It has been nearly two years since the world was plunged into crisis by the Covid-19 pandemic. With the emergence of new variants and prolonged restrictions in our daily lives, this has also been a time when we have become keenly aware of the great importance of the “everyday encounters” we previously took for granted.

It has always been my hope that the International Music Festival NIPPON, as a setting for “encounters” through music, will be a space for the creation of emotion and inspiration. I am looking forward to spending time together in the irreplaceable performance space and sharing special, genuine experiences with everyone who comes to hear the performances, as well as the young people who are the future of music.

I would like to express my deepest gratitude to those who have come to hear the performances, to the corporations who have provided continued support, and to everyone who has helped make the festival possible.

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2022



© TAKAKI KUMADA

Akiko Suwanai

諏訪内 晶子 (国際音楽祭NIPPON2022 芸術監督/ヴァイオリン)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィル、N響など国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

2012年、2015年、エリーザベト王妃国際コンクール、2018年ロン＝ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。また、これまでにデッカより15枚のCDをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学で学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のゲルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin/Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2022)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label.

Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the “Charles Reade” Guarneri del Gesù violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.



国際音楽祭 NIPPON 2022

芸術監督: 諏訪内晶子

諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル

J.S.バッハ:無伴奏ソナタ&パルティータ 全曲演奏会

Akiko Suwanai Violin Recital

J.S.Bach Sonatas and Partitas for Solo Violin, BWV1001-1006

2月11日(金・祝) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 11 Fri. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

Program 1
プログラム1

2月13日(日) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 13 Sun. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

Program 2
プログラム2

2月16日(水) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 16 Wed. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

Program 1
プログラム1

2月18日(金) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 18 Fri. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

Program 2
プログラム2

主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社 共催(愛知): 中日新聞社/CBCテレビ

協力: ユニバーサル ミュージック マネジメント(愛知): クラシック名古屋

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN



J. S. バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第1番 ト短調 BWV1001

J. S. Bach Sonata for Solo Violin No.1 in G minor, BWV1001

I. アダージョ II. フーガ、アレグロ III. シチリアーナ IV. プレスト
I. Adagio II. Fuga. Allegro III. Siciliana IV. Presto

INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第1番 ロ短調 BWV1002

Partita for Solo Violin No.1 in B minor, BWV1002

I. アルマンド — ドゥーブル II. クーラント — ドゥーブル III. サラバンド — ドゥーブル
IV. テンポ・ディ・ボレア — ドゥーブル
I. Allemanda - Double II. Corrente - Double III. Sarabande - Double
IV. Tempo di Borea - Double

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番 イ短調 BWV1003

Sonata for Solo Violin No.2 in A minor, BWV1003

I. グラーヴェ II. フーガ III. アンダンテ IV. アレグロ
I. Grave II. Fuga III. Andante IV. Allegro

Program 2
プログラム2

J. S. バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 ニ短調 BWV1004

J. S. Bach Partita for Solo Violin No.2 in D minor, BWV1004

I. アルマンド II. クーラント III. サラバンド IV. ジーグ V. シャコンヌ
I. Allemanda II. Corrente III. Sarabanda IV. Giga V. Ciaccona

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第3番 ハ長調 BWV1005

Sonata for Solo Violin No.3 in C major, BWV1005

I. アダージョ II. フーガ III. ラルゴ IV. アレグロ・アッサイ
I. Adagio II. Fuga III. Largo IV. Allegro assai

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番 ホ長調 BWV1006

Partita for Solo Violin No.3 in E major, BWV1006

I. プレリュード II. ルール III. ロンドー風ガヴォット IV. メヌエット I & II
V. ブレーレ VI. ジーグ
I. Preludio II. Loure III. Gavotte en Rondeau IV. Menuet I and II
V. Bourrée VI. Gigue

那須田 務(音楽評論家) Tsutomu Nasuda

諏訪内晶子のバッハ

ヴァイオリン奏者にとってバッハのヴァイオリン作品は特別な作品だ。

一挺のヴァイオリンのための一段譜に信じがたいほど豊かで多様な音楽が盛り込まれ、しかも全6曲を通して完べきな調和と深い精神性を併せ持つからだ。

昨年夏、諏訪内晶子は、この究極のヴァイオリン音楽ともいべき曲集の全曲録音(DG)に取り組んだ。今春その成果が新譜となって世に出るとともに、本日をふくむ「国際音楽祭NIPPON2022」で披露される。

今回のバッハへの取り組みについて諏訪内は自ら「機が熟したと感じた」からだと言う。20世紀後半の古楽演奏の台頭以来、バッハの演奏スタイルは実に多様になったが、諏訪内はピリオド奏法もある程度勉強するものの、あくまでもモダン楽器で臨む。バッハは古典であると同時にとてもモダンだからだ。そして今の自分なりのバッハが録音できればいい、改めてバッハは素晴らしい作曲家だと思ったと述べている。

実際、制御されたヴィブラートやメリハリの効いたアーティキュレーションといった古楽のスタイルを取り入れつつ、持ち前の音楽の優れた分析力と知性、強い精神力と高度な技術に裏打ちされた、たいへん表現の純度の高い演奏に仕上がっている。また、今回の録音で諏訪内はこれまでのストラディヴァリウスからグアルネリ・デル・ジェズに変えた。オールドの銘器の「人間の声」のような音色で奏でられる「歌」や「語り」も今回の録音の大きな魅力になっている。本日のコンサートでも、そんな諏訪内晶子の今のバッハがお楽しみいただけることだろう。

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)

《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》BWV1001~1006

バッハの6曲からなる《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータとソナタ》はバッハ自身の手による浄書譜などで今日に伝えられている。表紙にケーテン時代の「1720年」と記載されていることから、作曲はそれ以前のヴァイマル時代まで遡ると見られている。

通奏低音の時代といわれたバロック時代に珍しい無伴奏の独奏曲だが、もちろん先例はある。J・P・フォン・ヴェストホフの組曲(1683年)やパルティータ(1696年)、あるいはビーバーの《パッサカリア》(1676年頃)などで重音奏法など当時の最高度の演奏技法が盛り込まれている。バッハが1703年に半年間だけ宮廷楽師を務めたヴァイマルの宮廷に、先のヴェストホフ(1656年~1705年)が秘書官件室内楽奏者として在籍していたので、その折に先の無伴奏作品を知ったのかもしれない。

バッハは生前、鍵盤音楽、特にオルガンの名手として知られていたが、ヴァイオリンもよく弾いた。息子

のカール・フィリップ・エマヌエル・バッハによれば良く澄んだ通る音色でヴァイオリンを弾き、オーケストラを指導したというし、2度目のヴァイマル時代(1708年~1717年)には宮廷楽団で楽師長(現在のコンサートマスター)を務め、1714年にはやはり重音が連続する《ヴァイオリンと通奏低音のためのフーガ》BWV1026を作曲している。このヴァイマル時代にはもう一つ、ヴァイオリンに纏わるエピソードがある。それは、1709年に当時屈指のヴァイオリンのヴィルトゥオーゾ、J・G・ピゼンデル(1687年~1755年)が旅の途中、ヴァイマルを訪れ、バッハとテレマンの協奏曲を共演したことだ。以来ピゼンデルと交流を深めたが、こうした経験も曲集の成立に影響を与えたと考えられている。

冒頭で述べたように、この曲集は一挺のヴァイオリンでどれだけ多様な表現ができるかが示されている(プレリュード、フーガ、協奏曲、アリア、変奏曲、舞曲など)。そのために多様な旋律展開や単旋律による疑似的な対位法(特にフーガ)、重音やアルペジオなどによる和声、あるいは旋律と通奏低音の弾き分け(緩徐楽章)などが盛り込まれている。6曲のうち3つのソナタは、イタリアの教会ソナタの4楽章構成(緩急緩急)で第2楽章はフーガ、第3楽章は伴奏付アリア風。フィナーレは速いパッセージからなり、パルティータはアルマンドやクーラントなど当時流行した社交ダンスのスタイルの楽曲を繋げた組曲である。

全曲の配置も興味深い。バッハは受難曲などの大作を作曲する際に、その中の楽曲を左右対称に配列することを好んだが、同曲集(自筆譜)も同様である。ソナタ第1番ト短調とパルティータ第1番口短調および、最後のソナタ3番ハ長調とパルティータ第3番ハ長調の主音の関係は3度。その間のソナタ2番イ短調とパルティータ第2番ニ短調は4度の関係にある。すなわち二組の長3度関係の2曲が、4度関係の2曲を囲むように配列されているのだ。今回の全曲演奏の曲順もこのプランに従っている。

同曲集は作曲家の生前からいくつもの写本で広まり、没後半世紀後の1798年にはソナタ3番のフーガがパリで、1802年に3つのソナタがボンで、そして全6曲が1843年にライブツィヒで出版されてロマン派の作曲家たちに大きな影響を与えた。そしておそらくコンサートホールで演奏するために、メンデルスゾーンが「シャコンヌ」(1847年)を、シューマンが全曲をピアノ伴奏付き(1854年)に、ブラームスがピアノの「左手のためのシャコンヌ」(1879年)に編曲して刊行している。最後にブラームスの言葉を引こう。「このシャコンヌは私にとってもっともすばらしい、理解を超えるほど優れた音楽作品の一つです。一段譜で小さな楽器のために、この人はきわめて深い思想ととてつもない感情をもった、一つの完全な世界を書いたのです」。(鳴海史生訳)

<プログラム1>

ソナタ第1番ト短調 BWV1001

第1楽章アダージョは3オクターヴに及ぶ和音が印象的で全曲の弾き出しにふさわしい。これに第2楽章の古風な主題によるアレグロの3声のフーガが続く。この2つの楽章にはオルガン用編曲BWV539の2ヤリユート用稿があり、後者はヴァイオリン版にはない装飾音やスラーが書き込まれていて興味深い。第3楽章シチリアーナはイタリア・オペラのアリア風。穏やかな付点リズムが牧歌的な性格を醸し出

し、前の2つの楽章の緊張感を解放する。最後はジーク風のプレスト。スコットランドまたはアイルランド起源のジーク(ジグ)は一般的に8分の6拍子だが、バッハは8分の3拍子を選択している。

パルティータ第1番 短調 BWV1002

アレマンダ(アルマンド)、コレンテ(クーラント)、サラバンド、ブーレー(表記はテンポ・ディ・ボレア)の伝統的な舞曲構成。そこに、それぞれドゥーブルという華やかな装飾的変奏を添えている。アルマンドは8分音符や16分音符で流れるようなフレーズの典型的なアルマンドと違い、付点音符や三連音符が交差して独特な表情をもたらす、ソリストトリピエーノ(トゥッティ)奏者の役割が聴き取れる。ドゥーブルはなだらかに上下行する旋律に付けられた2音間のスラーがある種の浮遊感を生み出し、それが変化と表情を与える。第2楽章はフランス風のクーラントではなく、イタリア風のコレンテ。良く弾んで絶えず走り回るのが特徴だが、ここでも幅広い音域を主に8分音符のパッセージが往来する。ドゥーブルは音域が全体的に高くなり、16分音符が主体となってテンポが加速。続いてフランス風のサラバンドでは冒頭の厚い和音が堂々とした情念を醸し出すが、その後はバスと旋律の2声書法。リズムもサラバンドのダンス特有のものだ。一方のドゥーブルは分散和音で楽曲の表情も柔らかい。通常はジークだが、バッハはここに力強いダンス音楽ボレア風の楽曲を置いた。これも通奏低音の和声を伴う室内楽曲風。それに硬めのアーティキュレーションを主体としたドゥーブルが続く。

ソナタ第2番 短調 BWV1003

第1楽章グラーヴェは、ソナタ1番に匹敵するほどの力強い和音で始まる。属和音で終わってフーガに続くが、最後の和音に至る2つの4分音符にバッハは装飾音を示す波線を記している。第2楽章フーガは289小節に及ぶ長大な楽章でバッハの時代の理論家マッテゾンが称賛した。第3楽章アンダンテハ長調はイタリア・オペラのアリアや管弦楽組曲第3番の「アリア」を彷彿とさせる。疑似的な通奏低音による歩みの上で表情豊かな旋律が奏でられる。第4楽章アレグロもイタリア風。技巧的なパッセージで所々エコーの効果が盛り込まれる。なお、このソナタには第3者の手による、ニ短調版の鍵盤楽器のための筆写譜(BWV964)がある。

<プログラム2>

パルティータ第2番 短調 BWV1004

最後のシャコンヌ(自筆譜の表記はイタリア語のチャッコーナ)がずば抜けて有名だ。第1楽章アレマンダ(アルマンド)は16小節(2×8小節)×2の和声構造を持ち、1小節の2つの強拍にパルスを刻みながら進んでいく。第2楽章はイタリア様式のコレンテ(クーラント)。第3楽章サラバンダ(サラバンド)はゆったりとしたテンポと荘重な情念(アフェクト)で奏でられる。フレーズ構成やアクセントはこの舞曲の典型。第4楽章ジガ(ジーク)はイタリア風の8分の12拍子。これにかのチャッコーナ(シャコンヌ)が続く。このような組曲の締め括りに置かれたシャコンヌには長い曲が多いが、同曲も総数257小節で先行

する4つの楽章の合計よりも長い。4小節の主題と34の変奏からなる。変奏の基本となるのは4音の下行音階で、全変奏はおおよそ3つの部分に分けられ、中間部はニ長調。ヴァイオリンの華麗な名人芸とともに、ダイナミックかつ多彩な情念とサウンドの世界が繰り広げられる。なお、バッハの自筆譜は基本的に譜めくりをしなくても弾けるように書かれているが(当時の音楽家は、他人の作品は基本的に楽譜を譜面台に置いて弾いた)、この曲は例外。その点でも全6曲中異彩を放っている。19世紀以後メンデルスゾーンやブラームスら多くの音楽家を魅了し、ピアノ曲など様々な編曲で親しまれているのは先に述べた通りだ。

ソナタ第3番 長調 BWV1005

第1楽章はアダージョ。1番や2番の冒頭楽章が典型的なイタリア的な性格だったのに対して、3番のソナタはどちらかといえばフランス風のプレリュードの趣を持っている。C音から始まり、そこから徐々に声部を増やしていった4声になる。この曲にもクラヴィーア(当時の鍵盤楽器の総称)のための草稿がある(BWV968)。それに続くフーガは聖霊降臨節のためのコラール《来ませ聖霊、主なる神よ》の旋律をテーマにしたもの。第3楽章ラルゴへ長調も伴奏と旋律に分けられる。小さなスラーの連続は音楽修辭学の「ため息の動機」と見るかは意見が分かれるところ。終楽章のアレグロ・アッサイは、4分の3拍子の推進力のあるリズムと明快な旋律を具え、コンチェルトのソロのように華麗に邁進する。

パルティータ第3番 長調 BWV1006

第1楽章プレルーディオ(プレリュード)は空の高みから舞い降りるような音型で始まり、生き生きとしたパッセージが一气呵成に弾かれる。バッハはこの楽章を1731年にライプツィヒ市の参事会員交代式用カンタータ《われら汝に感謝す。神よ、われら汝に感謝する》BWV29の冒頭シンフォニアに改作してトランペットを含む大編成の音楽に仕立てた。この愛らしい曲が壮麗な曲に変身するなどまさに驚きだ。第2楽章ルールは4分の6拍子の重たい歩みでシュレーダーいわく「時折、鋭い付点リズムがダンサーの跳躍を思わせる」。第3楽章はロンドー風ガヴォット。協奏曲風にリトルネッロ主題と4つのクープレ(エピソード)からなる。愛らしい主題ゆえに人気が高く、単独でもしばしば演奏される。第4楽章メヌエットⅠ・Ⅱはフランスの宮廷で好まれたちょっとすました典雅な舞曲。バグパイプに似た楽器ミゼット風のドローン(持続低音)で始まる第2メヌエットを経て第1メヌエットに戻る。そして澁刺とした第5楽章ブーレーを経て、イタリア風のジガ(バッハはフランス語のジークと表記)で締め括られる。



国際音楽祭 NIPPON 2022 芸術監督: 諏訪内晶子

感動を紡ぐ: トップ・クオリティの追求 心をつなぐ: 演奏を通じた社会貢献 未来を創る: 次世代への継承

国際音楽祭NIPPONは、様々な機会を通して、豊かな音楽の世界を多くの方々と共に共有できる場を創ってまいります。

■ 諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル J.S.バッハ: 無伴奏ソナタ & パルティータ 全曲演奏会

Akiko Suwanai Violin Recital J.S.Bach Sonatas and Partitas for Solo Violin, BWV1001-1006

[名古屋] 2月11日(金・祝) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 11 Fri. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

2月13日(日) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 13 Sun. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

[東京] 2月16日(水) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 16 Wed. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

2月18日(金) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 18 Fri. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

■ 尾高忠明指揮/NHK交響楽団 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

NHK Symphony Orchestra, Conductor: Tadaaki Otaka, Akiko Suwanai(Violin)

2月21日(月) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 21 Mon. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

■ 公開マスタークラス(ヴァイオリン部門) Open Master Classes (Violin)

3月3日(木)・4日(金) 横浜 フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)

March 3 Thu. / 4 Fri. Yokohama FILIA HALL

■ ~諏訪内晶子 & フレンズ~ コンサート in 陸前高田(東日本大震災復興応援)

Concert in Rikuzentakata Supporting Recovery Efforts after the Great East Japan Earthquake

3月6日(日) 14:00 陸前高田 陸前高田市民文化会館(奇跡の一松ホール)

March 6 Sun. 14:00 Rikuzentakata Rikuzentakata City Cultural Hall (Kisekinoipponmatsu Hall)

■ 諏訪内晶子 室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friend

Akiko Suwanai Chamber Music Projects

Akiko plays CLASSIC with Friends

3月9日(水) 19:00 東京 紀尾井ホール

March 9 Wed. 19:00 Tokyo Kioi Hall

Akiko plays MODERN with Friends

3月11日(金) 19:00 東京 紀尾井ホール

March 11 Fri. 19:00 Tokyo Kioi Hall

■ ミュージアム・コンサート Museum Concert

3月12日(土) 19:00 名古屋 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー

March 12 Sat. 19:00 Nagoya Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby

■ ブラームス 室内楽マラソンコンサート Brahms Chamber Music Marathon Concert

3月13日(日) 東京 東京オペラシティ コンサートホール

March 13 Sun. Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

[第1部] 10:30 [第2部] 13:30 [第3部] 19:00

その他に、盲学校や小中学校でのアウトリーチ等を予定しております。

主催: ジャパン・アーツ / 日本経済新聞社 / 陸前高田市民文化会館(東日本大震災復興応援コンサートのみ)

共催: [愛知] 中日新聞社 / CBCテレビ [岩手] 岩手日報社 / IBC岩手放送 [横浜] フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)

後援: フィンランド大使館 / ドイツ連邦共和国大使館 / 東海新報社(東日本大震災復興応援コンサートのみ)

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

協力: ユニバーサル ミュージック / トヨタ産業技術記念館(ミュージアムコンサートのみ)

企画制作: ジャパン・アーツ プログラム監修: 沼野雄司 / 鈴木篤也

マネジメント: [東京] ジャパン・アーツ [愛知] クラシック名古屋

制作協力: [岩手] 岩手県文化振興事業団